

平成30年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 確かな学力と進路実現の保障 「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を進め、思考力や表現力、主体性を持って協働して学ぶ態度の育成を図り、生徒の進路実現に資することに努める。	① 授業改善を進め、生徒の思考力や表現力などの学力の向上を主体性をもって共働して学ぶ態度の育成を図る。	教務課	ICT機器（プロジェクター）の活用状況は、年間を通じて稼働率が上がっている。ICT機器を有効に活用し、生徒が主体的に授業に参加し思考力を高める内容や質問方法の工夫をしていく必要がある。	【満足度指標】 授業の内容は、生徒が主体的に活動する場面があり、思考力を高めることができる内容になっている。	授業の内容は、生徒が主体的に活動する場面があり、思考力を高めることができる内容になっていると答えている生徒の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合、さらに具体的な改善策を検討する。	7月、12月の学校評価などにより検討する。
	② 習熟度別授業等の改善を図り、個に応じたきめこまかな指導を充実する。 ・習熟度別授業の検証 ・学習意欲につながる授業改善 ・教科研究会等の充実 ・学力層に応じた指導方法の確立	教務課	習熟度別授業を国語、数学、英語で実施しているが、習熟度別授業が学力向上に効果的であると回答する生徒の割合は国語81.9%、数学82.0%、英語77.2%である。それぞれの学力層に合った効果的な指導について工夫していく必要がある。	【満足度指標】 習熟度別授業が学力向上に効果的な内容になっている。	習熟度別授業が学力向上に効果的であると答えている生徒の割合が90%以上の教科が A 3教科 B 2教科、またはいずれも80%以上 C 1教科、またはいずれも70%以上 D なし	C、Dの場合、さらに具体的な改善策を検討する。	7月、12月の学校評価などにより検討する。
	③ 高い進路目標を達成させる。 ・授業・個人面談・進路学習等とおして進路意識の高揚を図る。 ・難関大学志望者に対する添削、補習指導など組織的指導を充実する。 ・習熟度別の補習や課題を工夫し、受験に対応した指導を行う。	進路指導課 3年	30年度入試国公立大学合格者は ア：難関10大学・国公立医学部合格者2名（北大1、名大1） イ：金沢大学合格者10名 ウ：国公立大学合格者合計77名である。	【成果指標】 多くの生徒が高い進路目標を達成している。	ア：難関10大学・国公立医学科合格者10名以上 イ：金沢大学合格者30名以上 ウ：国公立大学合格者100名以上 以上ア～ウの項目のうち達成した項目が A 3項目 B 2項目、またはいずれも80%以上 C 1項目、またはいずれも60%以上 D なし	C、Dの場合、改善策を検討する。	年度末に評価する。
	④ 学習習慣の確立 ・1、2年生全員の家庭学習時間が平日3時間以上、休日5時間以上となるように、個人面談・授業での予習指導・週課題で指導する。	進路指導課 1年 2年	年間の平日家庭学習時間の平均が、1年生2.3時間、2年生3.0時間、また、休日は1年生3.0時間、2年生3.7時間である。個々の学習時間に差があるので、全体が達成できる目標を設定し、指導していく必要がある。	【成果指標】 1・2年生の年間平日家庭学習時間3時間以上の達成者割合で判断する。	年間平日家庭学習時間3時間以上達成者の割合が、 A 1、2年生ともに 65%以上 B 1、2年生ともに 50%以上 C 1、2年生ともに 35%以上 D 1、2年生ともに 20%以上	C、Dの場合、改善策を検討する。	個人面談、基準達成に必要な授業の予習指導、家庭学習時間調査を行う。
2 基本的な生活習慣の確立と豊かな心の涵養 あいさつの徹底等を通してコミュニケーション能力や規範意識を向上させ、自主自律の精神のもと、他者を思いやる心を持った心身共に健康な生徒を育成する。	① 「あいさつの徹底」を通して規範意識を向上させ、自ら考え行動できる生徒を育成する。	生徒指導課	本校では、毎朝3～4名の教員が輪番で登校指導を行っている。生徒もクラスから一人ずつ参加し、その重要性を自覚する良い機会となっている。生徒会執行部や部活動単位でも挨拶運動を行っているが、まだまだ徹底しているとはまでは言えない。昨年度「必ず挨拶する」「だいたい挨拶をする」と回答した生徒は93%であった。「挨拶する生徒が100%」を目指して、今年度も継続して取り組み、指導していく。	【努力指標】 生徒が自ら進んで挨拶を行っている。	第2回学校評価（生徒）で、「挨拶をしていますか」の間に、「①必ず挨拶する」「②だいたい挨拶をする」と答えた生徒の割合（①+②）が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月、12月の学校評価で現状を把握する。
	② 生徒間のネットトラブル等を未然に防止するための方策として、いじめに関する校内研修会やスマホ・ケータイ安全教室などを実施している。	生徒指導課	いじめ問題やネットトラブルの発生を未然に防止するために、教員・生徒を対象とする講習会等を実施している。いじめ問題が発生した場合は、学校と家庭が連携を深めて、教員が一致協力して問題解決に当たる体制を構築している。	【成果指標】 教員が、研修等を通していじめ問題やネットトラブル等の防止・対応・解決策について理解を深め、生徒への適切かつ有効な指導に結びつけている。	研修等によって理解を深めた、いじめ問題やネットトラブル等の予防・対応策を常に心がけ、日常の生徒指導において実践している教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月、12月の学校評価で現状を把握する。

	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
	③			【成果指標】			
	文武両道の実践のため、学習時間の確保と部活動の時間・内容を充実させ、運動部は北信越大会以上、文化部は北陸大会以上を目指す。	生徒会指導課	平成29年度は北信越（北陸）大会以上に8部が出場を果たした。内、全国大会（総体・選抜）には5部が出場を果たした。	北信越・北陸大会以上の大会への出場を果たす。	北信越大会・北陸大会以上の大会に出場した部活動の数が A 9部以上 B 8部～7部 C 6部～5部 D 4部以下	Dの場合、改善策を検討する。	2月に最終調査を実施する。
	④			【成果指標】			
	基本的な生活習慣の確立の第一歩として、全ての生徒がバランスの良い食事を摂るよう指導する。	保健相談課	学校評価で「毎日きちんと朝、昼、晩の食事を摂っている。」と答えた生徒は昨年は93.4%であった。今年度も引き続き「三食を毎日きちんと食べる」「栄養のバランスを意識する」よう指導したい。	生徒が毎日きちんと朝、昼、晩3度の食事を摂っている。	保健・相談課のアンケートで毎日きちんと朝、昼、晩3度の食事をとっていると答えた生徒の割合が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	Dの場合、評価が低いと判断して改善策を検討する。	7月、12月の学校評価を利用して調査で判断する。
	⑤			【成果指標】			
	部の顧問に協力を得て部活動単位で校外を問わず、積極的にボランティア活動をする。	生徒会指導課	25部中23部が複数回ボランティア活動を実施した。	生徒が部活動単位で複数回ボランティア活動を実施する。	複数回ボランティア活動を実施した部の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	Dの場合、各部顧問に積極的な活動参加を求める。	1月末に生徒会指導課で調査する。
	⑥			【成果指標】			
	『図書だより』、『図書館報』、読書啓発企画を通して、新着図書の紹介や読書の楽しさを啓発し、読書習慣を身につけさせる。	図書情報課	昨年度1年間の生徒一人当たりの貸出数は大幅に増加し、5.4冊であった。	図書の貸出数が、生徒一人当たり、6冊以上となる。	生徒一人当たりの貸出数が A 6冊以上であった。 B 5冊以上であった。 C 4冊以上であった。 D 4冊未満であった。	C、Dの場合、改善策を検討する。	月毎の図書貸出数の統計で判断する。
	⑦			【成果指標】			
	体育の授業で体づくり運動やチーム練習を主体的に取り組み、体力の向上を図る。	保健体育科	現在スポーツテストの種目で男女とも8種目中男女平均で3種目が全国平均を上回っている。	スポーツテストの結果で全国平均を上回った種目が6種目以上となる。	スポーツテストの結果で全国平均を上回った種目が8種目中 A 6種目以上 B 5種目以上 C 4種目以上 D 3種目以下	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月のスポーツテストの結果を集計する。
3	本校のブランドの浸透			【成果指標】			
	①			【成果指標】			
	地域との連携を深める中で「医志・教志未来塾」等の様々な実践的活動をさらに発展させ、本校の特色ある教育活動に位置付ける。	総務課	オープンスクール等の情報をポスターやホームページで提示している。オープンスクール参加者は、昨年度は398名、一昨年度は417名であった。	オープンスクールに400名以上の参加者を集める。	オープンスクールの参加者が400名を A 大きく上回った。 B 上回った。 C 下回った。 D 大きく下回った。	Dの場合、改善策を検討する。	オープンスクールの参加者（7月）で判断する。
	②			【成果指標】			
	出前授業、学校説明会、羽咋高校だより、地区別高校説明会、未来塾のPR等の実施に関して、内容・方法に工夫改善を加え、今まで以上に、地域住民、中学生や保護者に本校を理解してもらえるよう努める。	教務課	羽咋郡市に加え、河北・七鹿地区の中学校でも出前授業を行い、地区割を見直して、地区説明会の回数を増やし、内容も充実させた。その結果、倍率は1.07倍となった。しかし、羽咋郡市を含めた能登地区の少子化は深刻であり、定員を満たす生徒を確保するため一層の広報活動が必要である。	一般志願倍率を1.1倍以上確保する。	一般志願倍率が1.1倍に対して A 上回った。 B 同程度であった。 C 下回った。 D 大きく下回った	C、Dの場合、広報活動の方法を見直す。	年度末に評価する。
	③			【努力指標】			
	保護者や外部に向けて月別毎の行事予定表や実施した行事・部活動報告など、最新の情報をこまめに迅速に提供することに努め、本校の教育活動への関心・理解を深める。	図書情報課	昨年度の保護者アンケートにおいて本校のホームページが「役立つ」と答えた保護者が28.5%、「やや役立つ」が44.4%、合わせて72.9%と大幅に増加した。	教職員全員が、本校の教育活動の理解に役立つ、見やすいホームページ作りに努める。	保護者アンケートにおいて本校のホームページが「1役立つ」「2やや役立つ」と答えた保護者の割合（1+2の合計）が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合、改善策を検討する。	保護者アンケートで判断する。

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
4 教職員の多忙化改善 多忙化改善の取組として、放課後の働き方に対する意識改革と時間外勤務時間の縮減を目指す。	① 平日は、機械警備が作動する19:30までに退校するために、1日の業務計画を立てる。部活動に関して、年間計画、月別計画、実施表を作成・提出して、休日に休養を確保できるようにする。業務改善にも工夫をする。	教頭	平成29年度末時間外勤務時間調査によると、月80時間以上が15名いた。平日の19:30退校についても完全実施に至っていない。	【成果指標】 教職員全員が多忙化に向けた改善を意識することを目標とする	学校評価（教員）で、「多忙化改善に向けた取組」の間に、「1意識できた」「2だいたい意識できた」と答えた教員の割合（1+2の合計）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合、評価が低いと判断して改善策を検討する。	7月、12月の学校評価を利用して調査で判断する。